

## 入選

### きれいな富士山

千葉県 古和釜小学校

5年 大内芙実乃

私は今年の夏休み、一度は登ってみたいと思っていた富士山に、山小屋泊をして行ってきました。富士山は3,776メートルの日本一高い山で、空気がうすくて息が苦しいし、雨もふってきてとても大変だったけれど、安全に登山をすることができました。

そして、私はこの体験を通して学んだことがあります。登山中、とてもつかれて山小屋の前のベンチで休んでいたときに、足元に輪ゴムが何本か落ちていました。私が落としたごみでもないし、土だらけできたなかつたのでさわるのはいやだなと思い、そのまま見なかったことにしてしまいました。

その後に山頂まであと少しのところまで来たときに、さんその缶やペットボトル、岩のすき間にタバコのすいがらも落ちていて、遠くから見たときにあんなにきれいな富士山にも、こんなにごみが落ちていたことにびっくりしました。

山頂に着いてからも、私は登頂してうれしい気持ちの中に、少しだけでもやもやした気持ちもありました。どうしてかという、登ったときに落ちていたごみのことが気になってわすれられなかったからです。

私は登山のマナーとして、必ずゴミ袋を持って行って、自分が出したごみは自分で持ち帰るようにしています。山で発生したごみは、人の力で下まで運ぶしかなく、とても大変なことなので、山にごみ箱はありません。だれかが拾わないといけないし、富士山の思い出をごみが多かったということにしたくなかったので、私はごみ拾いをしながら下山することを決めました。

5合目までに拾ったごみは、お菓子の袋やトレッキングポールの先のゴム、ひもなど小さいごみが多かったです。下山中は足がいたいし、体もとてもつかれていたけれど、ごみをさがしながら歩くのはなんだか楽しかったし、時間が経つのが早く感じました。また、下山中に大きなゴミ袋を持ってごみ拾い活動をしている人たちも見かけました。

私が今回ごみ拾いをしたことで感じたことは、自分が落としたかどうかは関係なく、山をきれいになりたいという気持ちがあれば、落ちているごみはだれが拾ってもいいんだな、ということでした。今まで、ごみを落とさないように気をつけていたけれど、一歩進んでごみ拾いをしたことで、山に対して自分にもできることがあるんだと気づくことができました。私は富士山にお礼ができたような気持ちになって、うれしかったです。

これからも、今回の富士登山で感じたことを忘れずに、自分ができる小さな行動を続けていきたいと思います。